

ちがつていいんだ

小 四

「ふつう、そうだよね。人とちがうよね。」

そんなことを言うと、お母さんに、

「ふつうって何。ちがうって何とくら

べているの。だったら、お母さんも

ふつうじゃないし、あなたも人とち

がうよ。」

そう言われると、なんて答えたらいいか分からなかった。だってぼくは何かとくらべているわけではないし、ぼくがおかしいと思っただけだから。ぼくは、お母さんに言われて考えてみた。ぼくにとってふつうでも、それは人によってはふつうじゃないかもしれ

ない。

何も答えないぼくにお母さんは、

「自分とちがったりすると、おかしい

なってると思うことはあるよ。でも、そ

れは自分からしたらってことだと思

う。だって、みんな同じってないで

しょ。」

と言った。ぼくは、そのとおりだと

思った。

ぼくの周りには、走るのが速い子、

絵がうまい子、やさしい子、おもしろ

い子、いろいろな子がいる。みんなち

がうから楽しいことやうれしいことが

ある。友達と話していると、自分では

思わなかったことや、感じなかったこ

とを知ることが出来る。友達の考えに

対して、自分とちがうなって考えをす

るのではなくて、自分とはちがうけれどそういう考え方もあるのだなって思えたらしいなと思う。

ぼくには、三つ年上のお兄ちゃんがいる。そのお兄ちゃんとは、洋服を着る順番、お風呂に入って体を洗う順番がちがう。テレビを見ていて、笑うところがちがう。アニメで好きなキャラクターがちがう。たくさんの「ちがう」がある。ぼくにとってのふつうの行動や好きなことは、兄弟でもちがうところがあるんだ。「ちがう」って相手を知らることなんだ。

「ふつうはこうだ。」とか、「何かちがう。」とかそう思うことをやめたいとぼくは思う。なぜなら同じということはないし、一人一人ちがうのは当た

り前なのだから。「みんなとちがう」ではなくて「みんなちがう」んだ。ちがっていいんだ。

ぼくは、ぼくの周りにおいてくれる家族や友達が大好きだ。いろいろな人がいて、みんなちがっているからこそ、楽しいことやうれしいことがある。

ぼくは、みんなのいいところをたくさん見つけたい。